

防災フォーラム in 長町「地域防災を考える」を開催しました(2015/8/19)

テーマ：防災教育，地域防災，仙台市地域防災リーダー（SBL），防災コミュニティ
場所：仙台市太白区文化センター楽楽楽ホール

8月19日（水），仙台市太白区文化センター「楽楽楽ホール」において，防災フォーラム in 長町「地域防災を考える」が開催されました。主催は，長町中学校区小中学校連携協議会と太白区小中学校防災主任連絡協議会，そして災害科学国際研究所であり，学校教職員をはじめ，PTA や町内会役員，仙台市地域防災リーダー，教育行政や消防行政の市職員，長町中学校区の小・中学生，一般市民も含め約300名の方が参加しました。

講演の部では，佐藤 健 教授(情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)が「地域に根差した学びを通じた防災コミュニティづくり」と題して，講演を行いました。佐藤教授は，地域の自然と歴史に関する大人の学びと子どもの学びを融合させた地域ぐるみの学び合いが，防災コミュニティづくりの一つの有効な手法であることを，事例を交えて解説しました。もう一つの講演では，仙台市福住町町内会の大内幸子氏から，仙台市地域防災リーダーとしての地域防災の先進的な取り組み事例が紹介されました。その後，仙台市立長町中学校，長町小学校，鹿野小学校，長町南小学校の生徒・児童から防災学習の成果発表，最後に，「地域防災を考える」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは，桜井愛子 准教授(情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)がコーディネータとなり，また，東北大学工学部 建築・社会環境工学科 4年生の桜井梨那さんが5名のパネリストのうちのひとりとして議論に参加しました。防災コミュニティづくりにとって，平常時からの顔の見える関係づくりが重要であることや，東日本大震災を経験した今を生きる市民一人一人が震災の経験と教訓を風化させない責任を持つことなどが議論されました。

なお，来場者アンケート結果により，本フォーラムのような情報共有の機会を継続して設けていくことや，太白区や長町地区だけでなく，他の地域でも同様な場を設けていくことに対する期待と要望が確認されました。



会場の様子



佐藤教授



パネルディスカッション



桜井准教授



東北大学学生

文責：佐藤 健（情報管理・社会連携部門）